

わがやの にんきもの

このコーナーでは、市内在住の1～3歳までのお子さんの写真に、お父さん・お母さんのコメントをつけて紹介しています。誕生日など、思い出の1ページとしていかがですか？ご希望の方は、【秘書課・広報広聴係 ☎43-2112】までご連絡ください。



おおえ かなと
大江 奏人ちゃん

晃弘・美智子さんの長男（高道祖）

「ひとりで三角のおにぎりもきれいに全部食べられたよ～!!」って喜んで教えてくれました。ほっぺに頑張った証が残ってたね。どんどん1人でもできることが増えていって、その成長がお父ちゃんもお母ちゃんも嬉しいです。これからもたくさんいるいるなことを覚えていく奏人を隣で見守ってるよ♪



くめ や さく
久米谷 朔ちゃん

翔・加奈さんの長男（高道祖）

わんぱくでいたずら大好き、わが家のおうじさま、さくくん。でも本当はすごく甘えん坊！これからもいっぱい笑ってすくすく育ってね。

パパとママ、そしてらんちゃんのとこに生まれてきてくれてありがとう！



すずき りさ
鈴木 理沙ちゃん

俊・未央子さんの長女（二本紀）

この春から幼稚園生になった娘。毎日元気に登園し帰宅すると「今日も楽しかった！」と笑顔で一言。一日の出来事を思い出しながら一生懸命教えてくれます。

外遊びではブランコが大好きで、最近自分で漕げるようになり大喜び。これからもたくさん笑顔を見せてね。



豊加美幼稚園

夏の風景



通り雨の後、太陽とともに虹が出て、雨に濡れた朝顔と太陽に向かって元気に咲く向日葵を見ながらスイカをほおぼる・・・何気ない夏の一場面をすだれにのせて「夏」を感じる壁飾りを作りました。すだれも、新聞紙を細く丸め、1本1本色を塗り作りました。幼稚園最後の夏休み。いっぱい遊んで楽しい思い出をたくさん作ってね。



▲ほし組の皆さん

口頭詩

子どもの純粋な心のつぶやき

ふるかわ ひなた

(北海道) 5才8カ月時点

「あわせのたからへん」
 (出典：第23回国民文化祭いばらき2008
 「口頭詩フェスティバル」つばやきこども
 は詩人 下妻市教育委員会教育長賞受賞作品)

あたりがでるこ
 しあわせになれるんだ
 それじゃ
 ぜんぶあたりの
 たからくじをつくろうよ
 みんながうれしと
 ひなもつても
 うれしくなるからさ

【解説】
 宝くじは、ほんの数人にしか当たりがないと知った娘のひと言です。みんなの幸せは、自分の幸せである。人間として大切なことを思い出させてくれた言葉です。
 採集 母 古川裕子

市民文芸

俳句

簾越し電波の力時合す
 青蛙ランランラと浅夜かな

中山 香(北大室)
 篠崎 順子(若柳甲)

短歌

耳とほき眼もとほくなるわれに
 「糸通し器」とふあるを喜ぶ
 寄せ植えに家族集いし頃おもふ
 巣立ちゆく子にエールを送る
 麦の秋めぐりくるたび想う父母
 汗と芒とにまみれいましき
 休暇とり吾が為の看護に駆けつける
 娘にただただ感謝するのみ

山本せい子(下妻丙)
 山本 弘美(原)
 中久喜 和(下妻乙)
 吉原 真子(高道祖)

わたしから あなたへ



のぞみ なあみ
 前回登場の野寺直美さんからの紹介



ひいら くら まい こ
平久 麻衣子さん(平沼)

「休日の楽しみ」

お休みの日、家族で市内を散歩するのが最近の楽しみです。コンビニに寄ったり、図書館に行ったりと、あちこち寄り道しながら2時間ほど散歩します。一応どこを通ってどこで休憩してと、だいたいの道順を決めて出発しますが、その時その時でコースもバラバラ。「あの新しい家、ずいぶん建ってきたね」「新しいお店もうすくできてるね」「このおうちはいつもきれいに花が咲いているね」と、街の中の小さな変化を見つけてながら歩くのはとても楽しいものです。「コロナの影響でなかなか遠くまで気軽に外出できない今、身近な所で楽しめることを探したいと思います。でも、世の中が落ち着いてまた遠出ができるようになったら、まだ乗ったことのない新幹線に乗って出かけようね」と、子どもと話しています。

有料広告欄

有料広告欄